

「Planet Color」よくあるご質問

— 項 目 —

- Q01. プラネットカラーを塗装すると、なぜ木材が保護されるのですか？
- Q02. 「自然発火の恐れあり！！」とラベルに書かれていますが、自然発火とは何ですか？
- Q03. 塗装した木部なども自然発火を起こすのですか？
- Q04. 溶剤のバルサムテレピンとはどのようなものですか？
- Q05. 塗装した床がすべります。どうしたらいいですか？
- Q06. 塗装して数日経過しましたが、ベタベタして乾きません。
- Q07. どういう道具を使って塗装を行えばいいですか？
- Q08. 外部を塗装する場合にも拭き取りが必要ですか？
- Q09. ナチュラルな感じに仕上げたいので、外部にクリアを塗装したいのですが？
- Q10. ハードクリアオイルとグロスクリアオイルの違いを教えてください。
- Q11. 塗り回数について教えてください。
- Q12. NS シリーズとウッドコートの違いは何ですか？
- Q13. 塗装後の床のメンテナンスはどのようにすればいいのでしょうか？
- Q14. バルサムテレピンオイルで希釈する場合の割合を教えてください。また、希釈すると耐久性が落ちますか？
- Q15. ハードクリアオイルやグロスクリアオイルは希釈できますか？
- Q16. 内部塗装は拭き取りと聞きましたが、どのタイミングで拭き取ればいいのですか？
- Q17. 塗料が手についた場合どうしたらいいですか？
- Q18. 塗料が衣服についた場合どうしたらいいですか？
- Q19. 何故内部は拭き取らなければいけないのですか？
- Q20. 開封後の塗料はどの位の間、保存することができますか？
- Q21. 内部の再塗装の時期はいつごろですか？
- Q22. フォースターは取得していますか？
- Q23. 木の種類によって塗布面積が違うのですか？
- Q24. 床に適した塗装方法を教えてください。
- Q25. 外部の窓枠に適した塗装方法を教えてください。
- Q26. 使い終わったハケのクリーニング方法を教えてください。
- Q27. 何年前に木材保護塗料で塗装をしましたが、その上からプラネットカラーで再塗装を行えますか？
- Q28. 着色の塗料を混合することはできますか？
- Q29. 他社メーカーの塗料や溶剤と混合することはできますか？
- Q30. 木製の食器に塗装することはできますか？
- Q31. クリア仕上げの上からウッドコートで塗装はできますか？

OK-DEPOT

埼玉県さいたま市大宮区宮町 3-25

TEL : 048-631-1199 FAX : 048-644-7309

Q01. プラネットカラーを塗装すると、なぜ木材が保護されるのですか？

A01. 小さな木の導管に入りきらず、表面に被膜を形成する合成樹脂塗料に比べ、プラネットカラーの主成分である亜麻仁油は合成樹脂の1/50と分子のサイズが小さいので、導管の中にしっかりと浸透します。これによって、水の侵入に対しても木の呼吸を妨げることなく撥水し、メクレ・ハガレが起きず、汚れや手あかも防止します。また、ウッドコートやOPなどに含まれている顔料は鉱物（ミネラル）で形成されているので、紫外線を反射し、木の劣化を抑える働きがあります。

Q02. 「自然発火の恐れあり！！」とラベルに書かれていますが、自然発火とは何ですか？

A02. 自然塗料や油絵具の主成分である亜麻仁油やサラダ油としても使われる紅花油などの植物油（乾性油）は、空気中の酸素を取り込みながらゆっくりと乾燥・硬化していきま。この際にごく微量の熱を放出しますが、塗装のふき取りに使用したウエスなどを丸めたり重ねたりして放置すると、この熱が逃げ場を失い、少しずつ内にこもって自然発火を引き起こすことがあります。塗装に使用したウエスやスポンジなどはすぐに焼却するか、たっぷりの水に浸して処分して下さい。

Q03. 塗装した木部なども自然発火を起こすのですか？

A03. 自然発火はあくまでも放熱が妨げられるような状況のもとで起こります。塗装した木部はまんべんなく空気に触れることができ、ごく微量の熱を逃がすので自然発火することはありません。

Q04. 溶剤のバルサムテレピンとはどのようなものですか？

A04. 溶剤には水やアルコールを始めとして様々なものがありますが、バルサムテレピンオイルには油を溶かす性質があります。通常市販されているテレピン油とは異なり、ブラジルや地中海沿岸に生息する特定の松から抽出されたオイルです。松の油にはデルタ3カレンという成分が含まれていますが、この成分は鎮咳効果がある一方、アレルギーや皮膚炎の原因となることもあると言われています。バルサムテレピンオイルは、このデルタ3カレンの含有率が約0.0005%と非常に低いのが特長です。

Q05. 塗装した床がすべります。どうしたらいいですか？

A05. まず、床材が超仕上げ（カンナ仕上げ）であったかどうか確認して下さい。超仕上げの場合は木の表面が“ツルツル”した仕上がりのため、オイルが導管に入りにくい状態になっています。時間の経過と共にすべりにくくはなりますが、まめに雑巾がけをするとより効果的です。また、超仕上げの床材に塗装される場合は150～180番のサンドペーパーであらかじめ研磨すると、すべりを抑えることができます。

Q06. 塗装して数日経過しましたが、ベタベタして乾きません。

A06. 拭き取り不足が原因と考えられます。塗装後 12 時間程度であれば、もう一度ウエスでしっかりと拭き取って下さい。12 時間以上経過している場合は、オレンジオイルかバルサムテレピンオイルをウエスに浸して余分な塗料を溶かした後、から拭きして下さい。ただし、2 日以上経過すると取れにくくなりますので、その場合は弊社までご連絡いただけますようお願いいたします。

Q07. どういう道具を使って塗装を行えばいいですか？

A07. コテバケでの塗装をお勧めいたします。また、刷毛で塗装される場合はコシの強いものをお選び下さい。塗装のポイントは木目に沿って木の導管にしっかりと塗料を刷り込むようにマッサージすることです。

Q08. 外部を塗装する場合にも拭き取りが必要ですか？

A08. 内部は必ず拭き取り、外部は塗りっぱなしが基本です。ただし、外部で仕上がり感を調整するために拭き取りを行っていただいても結構ですが、その分耐候性が弱まりますのでご了承下さい。

Q09. ナチュラルな感じに仕上げたいので、外部にクリアを塗装したいのですが？

A09. クリアには紫外線をカットする顔料が含まれていないので、特に風雨にさらされる場所や南面などは木部の劣化が早くなります。従って弊社では外部でのクリア塗装を推奨しておりません。ただし、軒天やポーチ柱、軒が長くせりだしている箇所の外壁などではクリア仕上げでも問題がないと思われま。ただし、頻繁なメンテナンスが必要になりますのでご了承下さい。ナチュラルな仕上げをご希望される場合は、杉の赤身ならばウッドコートライトシーダー色、ヒノキの白身ならばバニラ色といった、木の材質に最も近い色を塗装される事をお勧めいたします。また、外部にウッドコートを塗装された上からクリアでコーティングする場合にはグロスクリアオイルをお使い下さい。

Q10. ハードクリアオイルとグロスクリアオイルの違いを教えてください。

A10. ハードクリアオイルはつや消しのクリアで、木の表面を硬く仕上げることができるので、細かいキズがつきにくく、床の塗装にお勧めです。また、テーブルの天板以外の家具や建具、羽目板などにも塗装することができます。グロスクリアオイルは、2~3 分の艶があり、熱に強いのが一番の特長です。このためテーブルの天板を始めとした内装全般にお使いいただけます。

Q11. 塗り回数について教えてください。

A11. 基本的に、内外装ともに 1 回塗りが可能です。ただし、より濃い色に仕上げたい場

合や耐久性を強めたい時、またウッドデッキなど摩耗が激しい箇所を塗装される場合は 2 回塗りをお勧めいたします。その他の例外については Q24、Q25 をご参照下さい。

Q12. NS シリーズとウッドコートの違いは何ですか？

A12. NS シリーズは従来のハードクリアオイル、ウッドコートから溶剤であるバルサムテレピンオイルを除いた製品です。揮発成分が全く含まれていないので、においに敏感な方にお勧めできる内装専用の塗料です。

Q13. 塗装後の床のメンテナンスはどのようにすればいいのでしょうか？

A13. 通常は水拭きを行うだけで十分です。また、2～3 か月に一度カルナバワックスエマルジョンをぬるま湯にとかして雑巾拭きされるとより効果的です。

Q14. バルサムテレピンオイルで希釈する場合の割合を教えてください。また、希釈すると耐久性が落ちますか？

A14. ウッドコートの場合は 20～30%程度のバルサムテレピンオイルで希釈すると、塗りやすさが増し、耐久性にも大きな差は出ません。また、外部塗装で希釈される場合はウッドコートとバルサムテレピンオイルの比率を 1：1 とし、2 回塗りをお勧めいたします。

Q15. ハードクリアオイルやグロスクリアオイルは希釈できますか？

A15. 20%程度を目安に希釈してお使いいただけます。

Q16. 内部塗装は拭き取りと聞きましたが、どのタイミングで拭き取ればいいのですか？

A16. あまり時間をおかず、追いかけるような形で拭き取って下さい。時間をおくと塗料の粘度が高くなり、拭き取りがしにくくなる上、ムラの原因にもなります。

Q17. 塗料が手についた場合どうしたらいいですか？

A17. 温かいお湯で中性洗剤を使って落として下さい。

Q18. 塗料が衣服についた場合どうしたらいいですか？

A18. 申し訳ございませんが、完全に取り除くことは難しいと思います。早い段階であれば、オレンジオイルを含ませた布でたたくようにすれば若干のシミは取り除くことができます。

Q19. 何故内部は拭き取らなければいけないのですか？

A19. 室内は屋外に比べて常に通気されている状態ではないので、拭き取らないと乾燥に時間がかかってしまいます。また、いつまでもベタベタした感じが残るので、必ず内部は

拭き取りをお願いいたします。

Q20. 開封後の塗料はどの位の間、保存することができますか？

A20. 開封後ふたをしっかりと閉じて密閉状態にしていいただければ、3～4年は繰り返しお使い頂くことができます。

Q21. 内部の再塗装の時期はいつごろですか？

A21. 内部に関しては特に再塗装の時期は定めておりません。ただし、玄関の上がり框や床など他の部分に比べて摩耗が激しかったり、キズがついてしまった箇所は撥水性が弱くなったと感じられた段階で部分的に再塗装を行って下さい。

Q22. フォースターは取得していますか？

A22. プラネットカラーシリーズは建築基準法の規制対象外商品となっております。従ってフォースターは取得しておりませんが、フォースター同等品として無制限にお使いいただけます。

Q23. 木の種類によって塗布面積が違うのですか？

A23. はい。木の表面の仕上げによっても、また材質によって吸い込みが異なりますので、塗布面積が大きく変わることがあります。

Q24. 床に適した塗装方法を教えてください。

A24. 材質によっても異なりますが、特にヒノキなどは超仕上げ（カナナ仕上げ）になっていることが多いので、塗料が浸透しにくく場合によっては塗料の吹き戻しなどが起こる可能性があります。このため、超仕上げになっている場合は必ず150～180番のサンドペーパーで表面を荒らして下さい。クリア塗装の場合はその後ラッペンワックスまたはハードクリアオイルの1回塗りで仕上げます。また、着色する場合はウッドコートまたはOPシリーズを塗装した後、必ずラッペンワックスまたはハードクリアオイルで仕上げして下さい。

Q25. 外部の窓枠に適した塗装方法を教えてください。

A25. 殆どの外部の窓枠（パイン材）は超仕上げまたは注入処理がなされているため、塗料が木部内部に浸透しにくく、雨によって顔料が流れ落ちて外壁のシミになりがちです。このため、80番前後のサンドペーパーで表面を荒らし、ウッドコートまたはOPシリーズを2回塗りするか、ウッドコートまたはOPシリーズを1回塗った後、必ずグロスクリーナーで仕上げして下さい。

Q26. 使い終わったハケのクリーニング方法を教えてください。

A26. オレンジオイルまたはバルサムテレピンオイルを使ってハケを洗浄して下さい。

Q27. 何年か前に木材保護塗料で塗装をしましたが、その上からプラネットカラーで再塗装を行えますか？

A27. 現在被膜を形成しないタイプの塗料で塗装されている場合には直接プラネットカラーを塗ることができます（ただし、メーカーによっては適合しない場合があるので、詳しくはご相談下さい）。再塗装の前に表面の状態をご確認下さい。木の表面が汚れている場合は水洗いをして、よく乾かしてから再塗装を行って下さい。また、上から塗装する色が薄い色であれば、下地を拾ってしまう場合があります。下地と同系色かそれよりも濃い色を選んで頂くことによって、より美しく仕上がります。

Q28. 着色の塗料を混合することはできますか？

A28. 例えばウッドコート同士、ウッドコートとプラネット OP など着色タイプの塗料をお好みの割合で混合して新しい色を作っていただくことが可能です。

Q29. 他社メーカーの塗料や溶剤と混合することはできますか？

A29. 成分などが異なるため、他社メーカーの塗料や溶剤と混合することは避けて下さい。

Q30. 木製の食器に塗装することはできますか？

A30. 安心してお使い下さい。プラネットカラーは EN71（ヨーロッパ玩具製造安全基準）に合格しておりますので、食器や玩具に塗装して頂くことができます。また、十分乾燥させるため、乾燥時間を 1 週間おいて下さい。食器の洗浄には中性洗剤をお使い下さい。

Q31. クリア仕上げの上からウッドコートで塗装はできますか？

A31. 弊社のクリアシリーズの上からウッドコートで塗装することは可能です。ただし、クリア塗装によって既にオイルが木の導管に浸透しているため、色が着きにくくなります。色を濃く仕上げたい場合はウッドコートを 2 回塗りして頂いた後に、クリア塗装で仕上げを行って下さい。また、できるだけ試し塗りをして色の濃淡をご確認されることをお勧めします。